

令和4年度地方創生推進交付金事業の事前評価・意見

資料 4

No.1	事業の名称	人が集い新たな価値が生まれるにぎわいとくしま推進事業
評 価		意 見
B	R3年とR4年との比較だけでは評価は難しいが、実際の移住・交流人口が、目標値に届かなかったため。	
B	まちづくりの担い手育成や事業への参加者は目標値を上回り、実績を上げている。ただ、コロナ禍で移住・交流に関する事業を縮小せざるを得なかったという状況はあるにせよ、移住・交流人口の創出は目標値には届いていない。2025年の大阪・関西万博に向けて、今年度はプロブレ万博、来年度はブレ万博の開催が予定されており、県と歩調を合わせて積極的な情報発信に努めて頂きたい。まずは認知度アップに加えて、「1回徳島に行ってみようか」「ちょっと徳島のモノを買ってみようか」という訪問意向、購買意向の向上が重要であると考えます。	
B	「事業を通じたまちづくりに携わった人の数」はKPI目標値を達成できている。また「移住促進事業」は、オンライン開催を取り入れるなどコロナ禍であっても、改善に向けた姿勢ががみられ評価できる。	
B	KPIのうち、事業を通じたまちづくりに携わった人数は目標値を達成しているが、事業を通じた移住・交流人口創出人数はコロナ禍において進捗が芳しくない。したがって、B評価とした。なお、移住者や交流人口の獲得は他自治体との競争環境にあるため、根本的には差別化を考えていく必要があると思われる。	
B	本事業のKPIは、まちづくりの担い手の創出としては目標値の2倍を超える実績値となり、取り組みの成果が出ていると言えるが、移住・交流人口創出数としては目標値を大きく下回る結果となった。今後さらに移住者数の増加を目指して対策を講じてほしい。	
B	コロナの影響もある中、目標値を大きく上回ったKPIがあり、また、交付金を充当する事業についてもコロナの影響を受けながらも一定程度の進捗がみられることからB評価としました。	
B	コロナの影響からの脱却を期待します。	
C	コロナの影響を受けて全体的に奮わなかった事業であり、今後の改善を期待する。達成度(実績値÷目標値)について昨年度からの変化をみると「まちづくりに携わった人数」は2.44から2.58、移住・交流人口創出数は0.17から0.26と努力の跡がみられる。	

No.2	事業の名称	イーストとくしまDMOニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現 (徳島東部地域の市町村との共同計画)
評価		意見
B		コロナ禍で観光需要の回復が、コロナ前に達せなかったため事業推進のために今後の努力が必要であると思われる。
B		コロナ禍の中にあっても、徐々にイベント開催の動きがみられ始めたが、本格的な需要回復に至っていない。引き続き宿泊客増加に向けた情報発信と、観光コンテンツの造成に励んでもらいたい。
B		KPIのいずれも目標値に到達していない。ただし、観光コンテンツ造成数は前年度よりも進捗がみられることから、総合的にみてB評価とした。
B		新たな事業創出という目標が高すぎるように思います。
C		各地で観光客が動き始め、観光需要の回復が期待されているものの、徳島市においては宿泊者数の回復が遅れている。目標値との乖離があり、特に2025年の大阪・関西万博や2027年のワールドマスターズゲームに向けて、DMOと連携したプロモーションを実施するとともに、市民の機運醸成にも努めて頂きたい。
C		徳島市の宿泊者数においても、観光コンテンツ造成数においても、目標値を大きく下回る結果となってしまった。今後、大阪万博に向けて、宿泊者数を獲得できるように、観光資源のブラッシュアップと情報発信に努めてほしい。
C		達成度をみると宿泊者数は0.39、観光コンテンツの造成は0.58で順調とは言えない。特に観光コンテンツの造成にはコロナはほとんど影響しないと思われる。効果検証の記述内容もコンテンツ造成の未達成理由とはあまり関係ないように思われる。
C		宿泊者数はコロナの影響がある中で達成が困難だったと思われるが、観光コンテンツ造成数についても一定の進捗はあるが達成できなかったことからC評価としました。

No.3	事業の名称	「しごと」を担い、まちを元気にする「地域活性化人材」創出事業
評価		意見
A	全ての事業において、目標値を上回っておりKPIが達成出来た。コロナ禍でも一定の成果が得られていると判断できるため。	
A	指標を達成しており、起業・創業を支援する土壌が着実に培われていることが伺われる。今後は、特に若い世代への働きかけやサポート体制の強化、教育機関との連携協力が求められる。	
A	本事業におけるKPI目標達成できておりA評価とした。 なお、「創業促進事業」や「市校生次世代プロデュース事業」では事業目標が未達成となったが、コロナ禍による各種セミナー等の開催規模・回数などの活動制限によるものでやむを得ないと事情と考える。	
A	いずれのKPIも、実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	本事業のKPIは、概ね目標値を上回る結果となっている。しかし、目標値の人数がもともと少ないので、もっと高い目標に向かって、安心して働くことができるまちづくりを実現してほしい。	
A	3つのKPIについて、いずれも目標値以上の実績となっている。関係する7つの事業うち5つで目標値をクリアしており、コロナ終息後の事業の進展は明るいと思われる。ただしKPIに採用されている人数が徳島市人口に比べて微々たるものなので「地域活性化」を実感できるものになっていないのではないかという疑問もある。	
A	KPIは達成していることからA評価としました。ただ、事業を通じて就業者や創業者が増加しているのはKPIや各事業目標の実績値で分かるが、どのような人材を育てようとしているのが見え辛い点が気になりました。	
A	なし	

No.4	事業の名称	2つのX(GX・DX)とイノベーション創出による徳島経済飛躍事業(県との共同計画)	
評価		意見	
A	達成していないKPIについても一定の進捗はみられることからA評価としました。		
A	GX参入の観点からの成果指標が合ったほうが良い。 例:社用車に高効率化車両(ハイブリッド車、電気自動車など)を導入した企業数		
B	限りなくA評価に近いB評価としたのは、目標値を上回った事業もあるが、支援の広報活動に課題が残されたため。		
B	消費スタイルがデジタル化へ大きく転換しようとしている中で、これまでECに取組んでこなかった事業者への支援が効果を上げている。ECによる証券や販路の拡大は重要であるが、反面、デジタル消費の進展による地元商店街の衰退も大きな課題である。		
B	概ねKPIの目標値を達成できており、一定の効果があったものと考えられる。		
B	2つのKPIのうち、「販路拡大に効果があった」と回答した事業者の割合は目標を達成しているが、「本事業による支援件数」は目標値に届いていない。ただし、後者は前年度より進捗がみられることから、B評価とした。なお、前者の指標は、やや主観的なようにも思われるため、後者のKPIの進捗が期待される。		
B	販路拡大支援事業とEC参入支援事業により、その効果を実感した事業者は多かった。しかし、本事業による支援件数は目標値を下回っており、今後より広報の機会を増やしてほしい。		
B	「販路拡大」の達成度は1.11、「支援件数」の達成度は0.68。今年度は支援を受ければ販路拡大できるという実績が出来たので、そのアピールが必要だと考える。		

No.5	事業の名称	3つの徳島県・地域連携DMOが協働する観光振興プログラム(県等との共同計画)	
評価		意見	
A			本事業において、KPIが達成できており、取り組みに対する努力が見られるため。
A			ウェブサイトのビュー数は、目標を大きく上回っており成果を上げている。ただ、ウェブサイトは継続的なトピックスの更新やメンテナンスが不可欠であり、今後は一度アクセスした人を「つかんでおく」工夫が必要である。
A			サイト閲覧数の目標が達成できているため、本事業は有効であったと考えられる。
A			KPIの実績値が目標値に達しておりA評価とした。
A			水都・とくしま魅力発信事業は、指標である公式観光ウェブサイトのページビュー数が目標値以上となっており、多言語対応やSNS等での魅力発信による成果が見られた。今後さらにインパクトのある発信を目指してほしい。
A			達成度は1.60で良好であるが、ビューカウントには人間だけでなく、検索エンジン(ロボット)の閲覧数が含まれるので鵜呑みにはできない。閲覧者の分析が必要であるとする。1つの事業だけで交付金事業を評価するのは危険だと考える。
A			KPIが大幅に目標値を上回っておりA評価としました。
A			徳島市単体での事業としては十分。事業全体評価として別途評価する必要があるが、県南部は苦戦しているのではないかと(DMVの話題性の低下など)

No.6	事業の名称	「グリーン社会とくしま」の実現によるサステナブルな地域づくり推進事業(県等との共同計画)
評価		意見
A	SDGsの取り組みについて積極的な情報発信に努めることは、KPI目標としている「市民のSDGs認知度」の向上に有効であると考えられる。	
A	SDGs普及啓発事業によって、市民のSDGs認知度を上げるための情報発信に努めることができた。特に「ひょうたん島周遊船」の電動化の実証実験では、SDGs認知度を上げることができた。今後も継続的に普及・啓発に努めてほしい。	
B	市としての努力は見られるが、今後の取り組みへの充実に期待を込めたい。	
B	認知度66.4%は評価するのに難しい数字であると考える。	
B	市民のSDGs認知度の算定の仕方が不明だが、公用車シェアリングのように取り組み自体は評価できると考えB評価としました。	
B	公用車休日開放は、アイデアとしてはよかったが、グリーン社会をめざすには公共交通利用促進のほうが政策的に優れているのではないだろうか？	
—	初めてのSDGs認知度調査であり、目標値が「調査を実施する」ことになっているので、数値として評価をすることは難しい。(次年度以降、数値としての比較が可能となってから評価する方が良いのではないか)	
—	KPIの目標値設定がなく(?)、前年度の実績値もないため評価できず。	

No.7	事業の名称	社会・経済状況の変化に適応する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略 (県等との共同計画)	
評価		意見	
A		KPIが達成できており、こつこつ取り組んでいる努力が認められる。	
A		新商品開発に関して、事業開始からの活用は累計11件となり着実に実績を積み重ねている。今後は、その新商品が販路を拡大し、どのように売り上げを伸ばしていくのかをフォローすることも大切である。	
A		KPI達成できており、本事業は有効であったと考えられる。	
A		KPIの目標値を達成しておりA評価とした。ただし、目標値が1件／年というのは、現実的ではあるが、目標としてはやや控え目な印象がある。	
A		農林水産物の新品種・新技術の開発・導入数の目標値を達成しているが、今後さらに6次産業化に意欲ある生産者や商工業者等への支援を続けることにより、地域資源を軸とした産業の活性化を目指してほしい。	
A		KPIを達成しておりA評価としました。	
A		6次産業化件数の達成を評価します。	
B		KPIを達成しているが、目標値「1」の妥当性が分からない。商品化できた数だけでなく商品化に取り組んだ数も評価すべきではないか。	